

あおもり漁連

故 植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
169



本会通常総会で議長を務めた脇野沢村漁協立石組合長

CONTENTS

2019年度 青森県漁連通常総会開催	1
2019年度 漁協役職員研修会開催	3
青森県漁連・経对本部合同研修会開催	5
2019年度 青森県漁業経営安定対策本部通常総会	6
ホタテの日イベント	7
2019年度 ホタテ水揚げ状況	8
漁協組合長改選状況・新人職員紹介	9

2019.8

資源・金融・共済の三本柱推進

二〇一九年度 (第七十事業年度) 青森県漁連通常総会開催

去る、六月十八日、青森県水産ビル七階大会議室において、青森県漁連二〇一九年度(第七十事業年度)通常総会を開催し、平成三十二年度決算、二〇一九年度事業計画に関する件など五議案が審議され、議案は全て原案通り承認決定された。

開催にあたり、三津谷会長が次の通り挨拶を述べた。

「本日、第七十事業年度通常総会を開催致しましたところ、会員の皆様にはご多忙の中、ご出席を頂き誠にありがとうございました。

さて、わが国の漁業情勢は、漁業就業者の高齢化と担い手不足、並びに海洋環境の変化による漁獲量の減少、水産物の消費低迷を起因とする恒常的な魚価安や漁業生産に占めるコストの割高感により、依然として厳しさを増しております。

本県漁業におきましては、ホタテ養殖漁業において、近年の高値取引により四年連続で百億円を超える取扱高を計上し、計画を上回る事が出来ましたが、漁船漁業においては、主力魚種であるスルメイカが長期的な不漁に陥っていることや、クロマグロの資源管理の影響もあり、総じて漁獲が減少し、漁業経営は厳しい状況にありました。

このような状況の中、本会では、「地域浜プラン」及び「広域浜プラン」の実践に向け

た取り組みを支援するとともに、国の施策である「漁船リース緊急事業」をはじめとする「水産業競争力強化緊急事業」の積極的導入と有効活用を図り、漁業経営の安定化と中核的担い手の育成に努めて参りました。

昨年度では、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化に向けた水産政策の改革を打ち出し、七十年ぶりとなる漁業法の改正など関連法案が成立されたところであります。当連合会と致しましても、引き続き改革に必要な予算確保と新たな政策の実現に向け、取り組んで参ります。

さて、当連合会の決算については、販売部門の取扱いの落ち込みや港町製氷冷凍工場の解体等により、当期剰余金段階で五千四百万円のマイナスとなりましたが、計画どおり解体積立金の取り崩しを行い、最終的な当期末処分剰余金では、四千八百万円を計上致しております。

なお、会員各位に対しましては、販売・ほたて部門の奨励金として四千二百万円、購買部門の施設助成で三百万円をお支払い致しております。

また、二〇一九年度の計画については、先般の組合長会議でもご説明致しましたが、魚価及び漁業所得向上を目的とした「JF青森漁連流通PRセンター」の建設について、当

初、本年4月の事業開始を目指して進めて参りましたが、工事の途中で予期せぬ支障物が出現し、工期を延長せざるを得ない状況となりました。現在十月二十日の引渡しを目的に工事を進めており、十一月事業開始に向け、業務に取り組んでいる所でありますので、会員の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

終わりに、本総会に上程の全議案につきましては、慎重なるご審議を頂き、ご承認賜りますようお願い申し上げますとともに、二〇一九年度の浜の好漁と、海上安全、そして救命胴衣一〇〇%着用の実現、併せて本日ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を御祈念申し上げます。私からの挨拶と致します。本日は誠に有難うございました。」

続いて、来賓を代表して、三村申吾青森県知事より祝辞があり、その後、立石政男脇野沢村漁協組合長を議長に選出し議事に入った。議事では、第一号議案の平成三〇年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表及び剰余金処分案に関する件を始めとする五議案について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認決定された。



祝辞を述べる三村知事



主催者挨拶をする三津谷会長

〔2019年度事業計画〕

基本方針

30年間続いた平成の時代が終わり新元号「令和」の新時代に入りますが、本県漁業を取り巻く環境は未だ厳しく、漁獲・魚価・消費の低迷、漁業就業者の高齢化及び後継者不足、燃油や漁業用資材の高止まりなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況を打開するため、当連合会では、浜の活性化対策として、各浜が策定した「地域浜プラン」及び「広域浜プラン」の実践に向けた活動を推進するとともに、水産業の成長産業化に向け、国から3200億円の大型予算が手当されたことから、積極的な事業の導入と有効活用を図り、漁業所得の向上と中核的担い手育成に取り組んで参ります。

水産政策の改革については、引き続き全漁連と連携を図り、改革に必要な政策の確立と予算確保に向け、取り組んで参ります。クロマグロ資源管理対策については、第五管理期間における漁獲上限の遵守等、適正管理に努めるとともに、関係機関と連携を図り、漁業所得の確保に向け、国に働きかけて参ります。

漁協の組織再編については、各漁協から示された合併の方向性を基に、諸問題解決に向けた協議を加速させ、「新合併基本計画」の完遂を目指します。

また、本県水産物の素晴らしさと魅力を国内外に発信し、水産物の価格向上と漁業者の所得向上に寄与することを目的に、現在建設中の「JF青森漁連流通PRセンター」が完成することから、行政並びに各漁協と連携を図りながら、本県水産物の消費拡大と付加価値向上に向けた取り組みを展開して参ります。

以上を基本方針とし、本年は下記事項を重点的に推進して参ります。

記

<重点推進事項>

1. 水産資源の管理・確立を図るための諸対策
2. 漁協の経営基盤の強化並びに漁業金融の推進
3. 漁家・漁協経営の安定・向上と漁業共済加入促進
4. 水産物の消費拡大と価格向上及び付加価値向上
5. 漁業用石油類及び資材類の安定供給
6. 各種漁業の生産基盤強化及び増養殖事業の推進
7. 水産物の衛生管理
8. 漁業環境の保全
9. その他漁業者及び漁協の経営に資する事項並びに漁業振興に資する事項

2019年度 漁協役職員研修会 開催

去る、7月23日、(公社)青森県漁協経営安定対策協会の主催による県域合併構想(4ブロック)の実現に向けた具体的協議の促進を目的とした研修会を、アップルパレス青森において、組合長をはじめとした役職員並びに系統団体を含め250名参加の下、開催致しました。



総勢250名の出席者



水産庁 加悦課長補佐

始めに、三津谷会長が「本県漁協の現状は、要となる販売取扱高が著しく減少し、漁業・漁協経営は極めて厳しい状況にあります。この様な中、昨年12月に70年ぶりとなる漁業法改正が行われ、この中には漁協制度の見直しも含まれており、「漁協は漁業者の所得向上に最大限の配慮をしなければならない」旨、規定されており、組織・経営基盤強化が必要不可欠で本県は待った無しの状況にあることから、本日の研修会を期に役員としての進むべき方向性について協議検討する機会として頂きたい。」と挨拶を述べた。



全国監査機構 近江委員長



本会 熊木専務

〈 研 修 内 容 〉

- (1) 「水産政策の改革における漁協の役割について」
講師：水産庁 漁政部水産経営課
課長補佐 加悦幸二氏
- (2) 「本県漁協の現状と課題について」
講師：青森県漁業協同組合連合会
専務理事 熊木正徳氏
- (3) 「J F 役員の責務について」
講師：J F 全漁連 J F 全国監査機構
監査委員長 近江正幸氏
- (4) 「漁協合併における課題と対応事例」
講師：J F 全漁連
専務理事 中平和典氏

その後、4名の講師の皆さんから、それぞれご講演をいただき、最後に、青森県農林水産部水産局 対馬局長がこれまでの講演を受け、「今回の漁業法改正について、漁協は組合員へのサービスを改めて求められている事を今一度認識頂くことと、漁協合併には少なからずデメリットも有るがそこで歩みを止めず、少しずつ課題を克服して前に進むことが大事である。」と講評を述べ、研修会を終えた。



対馬水産局長



全漁連 中平専務

2019年度 青森県漁連及び経対本部合同研修会開催

去る7月9日、水産ビル3階会議室において、本会と青森県漁業経営安定対策本部共催による「2019年度県漁連及び経対本部合同研修会」が本会役職員、経対本部役員、県を合わせ約50名参加の下、開催されました。

冒頭、三津谷会長が「昨年12月の臨時国会において、70年ぶりとなる漁業法の改正が行われたところですが、本日の研修会では特に漁業制度の見直し等の内容について研修を行う予定です。また、研修会の後半では、現在、各地区でも研修や協議が行われている海洋再生可能エネルギーの制度内容や先進地事例をご紹介する予定ですので、有意義な研修にしていきたい。」と挨拶を述べた。

〈 研 修 内 容 〉

(1) 「改正漁業法について」

講 師：水産庁漁政部水産経営課
 課長補佐 馬場 幸男 氏
 水産庁資源管理部管理調整課
 免許調整係長 清水 宣維 氏

(2) 「海洋再生エネルギーについて」

講 師：水産庁漁港漁場整備部計画課
 計画官 富樫 真志 氏
 全漁連漁政部
 部長代理 貴家 誠 氏

(3) 「洋上風力発電先進地事例報告について」

講 師：(一社)海洋エネルギー共生センター
 理事 渋谷 正信 氏

改正漁業法について漁協の今後の対応と、今後重要視される海洋再生エネルギーの有効利用について説明があり、受講者は熱心に聞き入り、積極的に質問が飛び交う有意義な研修となった。



水産庁 馬場課長補佐



水産庁 清水係長



水産庁 富樫計画官

2019年度青森県漁業経営安定対策本部通常総会

去る6月18日、青森県水産ビルにおいて、2019年度青森県漁業経営安定対策本部通常総会が開催され、平成30年度決算、2019年度事業計画について審議し、原案通り承認決定した。

〈 重点事項 〉

1. 水産政策の改革への対応
2. 浜の活性化対策
3. クロマグロ資源管理対策
4. 密漁防止対策
5. 燃油高騰対策
6. 水産物安全対策
7. 有害生物対策
8. 循環型漁業の構築
9. その他諸問題について



主催者挨拶をする三津谷本部長

蘇れ！！協同組合運動

－2019年度スローガン－

資源・金融・共済の三本柱推進による循環型漁業の構築と漁業経営の安定化

- 水産業の成長産業化を目的とした予算の有効活用による魚価・漁業所得の向上
- 広域浜プランの実践による浜の活性化と地域振興
- 燃油高騰セーフティネット事業への継続加入による漁家経営の安定
- 漁協組織再編による経営基盤強化

2019年度「ホタテの日」

記念イベント開催

青森ホタテのPRと消費拡大のため、青森県漁連とむつ湾漁業振興会は、平成十年に六月十八日を「ホタテの日」と制定し、平成十一年から記念イベントを開催しており、今年で二十一回目となります。

今年も、青森県ほたて流通振興協会、ほたて広場運営協議会との共催により、六月十六日（日）に平内町の「ほたて広場」を会場に開催しました。

開会式では、立石むつ湾漁業振興会会長が「ホタテの日は、平成十年に六月十八日をホタテの日と制定して、翌十一年に最初の記念行事を行ってから、今年で二十一年になります。陸奥湾のホタテ漁業は、平成二十二年、夏の異常高水温で過去最大の被害を受け、五年の年月を経て、復活する事が出来、四年連続で一〇〇億円を達成することが出来ました。本日は、そのお祝いと、日頃から陸奥湾ホタテをご愛用いただいている事に感謝の気持ちを込めて、ポイルホ

タテの無料配布、ホタテ貝焼き試食、また、

店内においてもホタテ製品の格安販売をしております。更に、ホタテの日二十年を記念致しまして、抽選で活ホタテ五キロを二十名に贈呈致します。本日は日頃の感謝の気持ちを込めて、ご来場の皆さんに美味しく食べていただけるよう、宜しくお願ひ申し上げます。」と挨拶を述べ、船橋平内町長（逢坂水産商工観光課長代読）並びに對馬県水産局長（松坂水産振興課長代読）の祝辞に続き、秋田県湯沢市の小町娘が和歌を披露し、イベント開催の運びとなりました。

続いて、ステージ横のテントにおいて、来場者先着五〇〇名様に「ポイルホタテ二五〇g」「ホタテの日記念ウチワ」の無料配布が行われました。更に今年は二十年の開催を記念して、「活ホタテ5kg」を二十名様に当たる抽選会も行われ、大盛況でした。

ステージでは小町娘和歌披露、スコップ三味線ひらな演奏会、からくりどーるマジックショー、二代目青森ほたて大使三津谷有華歌謡ショー、また、ほたて広場正面入り口横では、来場者先着一〇〇〇名様にホタテ貝焼の無料配布が行われました。イベントは悪天候により一部中止となりましたが盛況に終了致しました。



主催者を代表して挨拶をする立石会長



貝焼きの無料配付



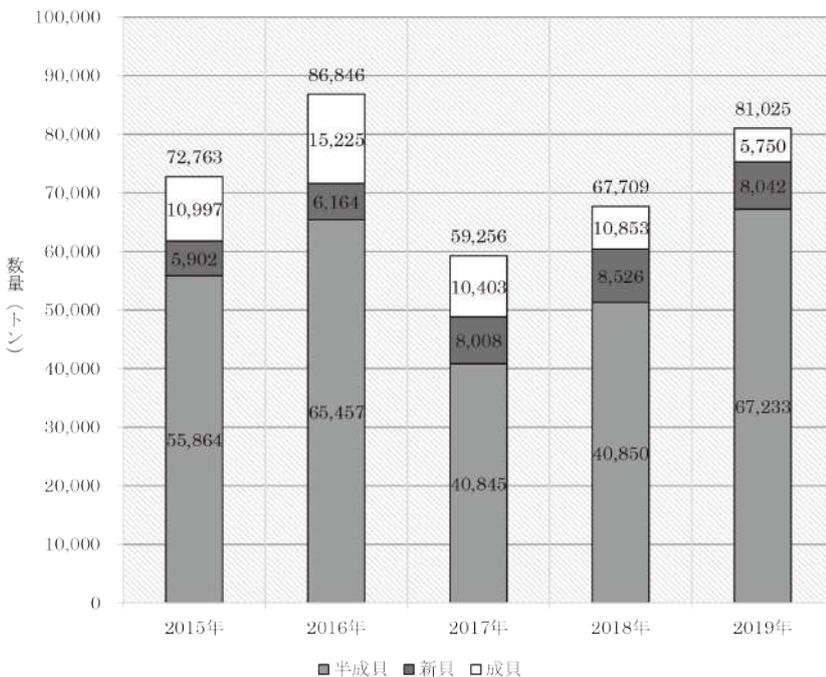
抽選会に当選した参加者

青森県漁連ホタテガイ取扱実績(7月末実績)

2019年度7月末の取扱実績は、水揚げ数量は成育が良好である事から、最近5年間で2番目に多く、一方、単価は主力である半成貝が予想以上に水揚げされた事、噴火湾への搬出が無かった事から、平均価格は115円となり、平年並みで推移しました。更に、7月23日で水揚げ金額が100億円(税込)となり、5年連続で100億円を達成する事が出来ました。

半成貝の水揚げは大方終了

年度別品目別取扱



し、新貝も8月以降水揚げは徐々に少量となり、今後は冬場に向けた成貝の水揚げを控えています。水温の上昇に伴い、ホタテが弱って死に始める事から、早期出荷に努め、残す貝は水温が低い下層に沈めるよう指導の徹底を図って参ります。

本会三津谷会長が全漁連理事に再任

本会三津谷廣明会長が、2019年6月20日に開催された、全国漁業協同組合連合会通常総会における役員選任にあたり、全漁連の理事に再任されました。

前期に引き続いての就任となり、任期は2022年度全漁連通常総会までとなります。

三津谷 廣 明

昭和46年度 平内町漁協 理事就任
 平成16年度 平内町漁協 代表理事組合長就任
 平成17年度 青森県漁連 理事就任
 平成26年度 青森県漁連 副会長理事就任
 平成29年度 青森県漁連 代表理事会長就任
 平成30年度 全漁連 理事就任



県内漁協組合長改選状況報告

(2019年6月30日現在)

漁 協 名	新組合長名	前組合長名
風 合 瀬	鈴 木 武 利	坂 崎 清 美
八 戸 鮫 浦	関 野 稔	福 嶋 一 雄

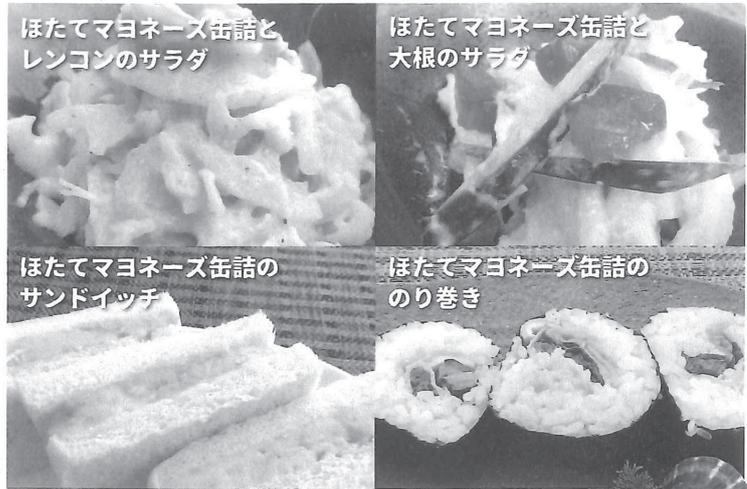
青森県漁連新人職員紹介



流通課 三津谷 烈 (組合学校卒)

この春から入会し、流通課配属になりました。
 分からない事だらけで、皆様にご迷惑をかけることもあると思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

JF 青森漁連が誇る定番の味



青森の輝く太陽と青い海で生まれた
グリコーゲンいっぱいの万人向けの味!

ほたての旨味を最大限に引き出すよう、贅沢にも貝柱のみを使用し、そのほぐし身と特製の自家製マヨネーズでバランスよく和えました。サンドイッチ、野菜サラダ、コロッケ、おにぎり具材などなどバラエティに富んだ調理にご利用ください。



ほたてマヨネーズ缶詰

1箱【105g×5個入】

2,670円(税込)

1箱【105g×3個入】

1,610円(税込)



ほたてマヨネーズ缶詰の キャベツ巻き

材料(4人分)

ほたてマヨネーズ缶詰 1缶 人参 …………… 30g
キャベツの葉 …… 4~5枚 塩コショウ …………… 少々
玉ねぎ …………… 100g

作り方(所要時間25分)

①玉ねぎは薄く切って水にさらしてから水気を絞る。人参は3cmの長さに細切りにする。②たっぷりの熱湯でキャベツを茹で、次に人参を茹でる。キャベツの芯の所は薄切りにする。③ボウルにほたてマヨネーズ缶詰とキャベツの芯の所・人参・玉ねぎを混ぜる。④まきすの上にキャベツの葉1枚を広げ、③のをせてくるりと巻いて2cm幅に切る。



蒸しベビーホタテ

そのまま生食、サラダ用として、
また炒め物や煮物などにも最適。



写真は調理例です

ベビーほたて、産地は下北半島と津軽半島、八甲田山系に
囲まれた青森県陸奥湾。川から注ぎ込む山の栄養と、津軽
海峡の新鮮な海水が良質なほたてを育てます。

旨味もタウリンもたっぷり蓄え、甘みの強いベビーほたてを急速
凍結しました。

和・洋・中華のどんなお料理にも良く合いますので、各種お料
理の素材として幅広くご利用頂けます。



蒸しベビーほたて
生食用(500g×1袋)

1,150円(税込)



その他、活ホタテや県内水産物の加工品(ホタテ、マグロ、イカ、海藻類、魚卵製品)を取り扱っておりますので、ご用命の
際は本会流通課又は下記直販店舗までお問い合わせ下さい。

本会流通課

TEL 017-722-4212
FAX 017-722-5029

アスパム直販店
(観光物産館アスパム)

TEL 017-773-3633
FAX 017-773-3626

青森空港直販店
(青森空港内)

TEL・FAX
017-762-1500

令和元年8月30日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)

〈印刷〉ワタナベサービス株式会社